

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和3年度事業年度計画）

評価を変更した項目（3項目）

資料1

No.	中期計画	R 3 年度計画	計画の実施状況	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																													
14	学生の新卒者の合格率90%の維持 (薬学部薬学科)	・第106回薬剤師国家試験（令和3年2月実施）の内容を精査し、教育内容の検証を行う。成績不良者の基礎学力を向上させるための補講を実施し、学生の学力レベルの底上げを図る。	・第106回薬剤師国家試験の内容を精査することで教育内容を検証し、成績不良者の学力向上を目指した「底上げ補講」を夏期・秋期の2回実施した。 薬剤師国家試験（第107回） 新卒者の合格率95%	S (R2) (S)	A (R2) (A)	<div>薬剤師国家試験の合格率95%は、数値目標90%を上回る高い水準であり、計画を順調に実施している。</div> <div>薬剤師国家試験合格状況</div> <table><tr><th colspan="2">区分</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th></tr><tr><td rowspan="3">静岡県立大学</td><td>合格者数</td><td>77</td><td>79</td><td>81</td><td>74</td><td>76</td></tr><tr><td>受験者数</td><td>81</td><td>80</td><td>81</td><td>80</td><td>80</td></tr><tr><td>合格率</td><td>95.1%</td><td>98.8%</td><td>100%</td><td>93.7%</td><td>95.0%</td></tr><tr><td>全国平均</td><td>合格率</td><td>84.9%</td><td>85.5%</td><td>84.7%</td><td>85.6%</td><td>85.2%</td></tr></table> <div>合格率の全国順位</div> <table><tr><th></th><th>H29</th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th></tr><tr><td>合格率順位 (対象：国公立17校)</td><td>9</td><td>5</td><td>1</td><td>5</td><td>4</td></tr></table>	区分		H29	H30	R1	R2	R3	静岡県立大学	合格者数	77	79	81	74	76	受験者数	81	80	81	80	80	合格率	95.1%	98.8%	100%	93.7%	95.0%	全国平均	合格率	84.9%	85.5%	84.7%	85.6%	85.2%		H29	H30	R元	R2	R3	合格率順位 (対象：国公立17校)	9	5	1	5	4
区分		H29	H30	R1	R2	R3																																													
静岡県立大学	合格者数	77	79	81	74	76																																													
	受験者数	81	80	81	80	80																																													
	合格率	95.1%	98.8%	100%	93.7%	95.0%																																													
全国平均	合格率	84.9%	85.5%	84.7%	85.6%	85.2%																																													
	H29	H30	R元	R2	R3																																														
合格率順位 (対象：国公立17校)	9	5	1	5	4																																														

* 自己評価及び検証の下段カッコ書きは、昨年度評価結果

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和3年度事業年度計画）

評価を変更した項目（3項目）

資料1

No.	中期計画	R3年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
38	<p>・学生相談、健康指導および障害学生支援を充実させ、学生の身体的かつ精神的な健康の増進、疾病予防を支援する。</p>	<p>・学生の心身の健康状態について、健康支援センターや他部局と守秘義務を遵守した情報共有を適時実施し、学生個々の到達目標に合わせた健康支援を行う。</p> <p>・障害や慢性疾患のために修学に際して特別な配慮を希望する学生の相談に応じ、各学部・各部局と連携して必要な支援や合理的配慮の提供をコーディネートする。</p> <p>・学生の心身の健康保持・増進に関するニーズに沿った健康支援のほか、健康講座や障害学生支援の理解を深めるための講演会を学内内部局と連携を取りながら開催する。</p> <p>・学生の傷病の応急処置・メンタルヘルスへの対応や感染予防対策を行う。また、ウィズコロナの学生生活における衛生指導、健康増進等に取り組む。</p> <p>・学生の健康診断に対応し、要再検査・要受診者に対して生活指導・受診勧奨を行う。</p>	<p>・身体・精神に問題を抱える学生に対し、学生との面談や保護者、担当教員、学生室、健康支援センター各室と情報共有を行い、守秘義務を遵守し連携を取りながら支援を進めた。</p> <p>・障害や慢性疾患のために修学に際して特別な配慮を希望する学生に対し、所属学部、学内各部署と連携し、必要な支援や合理的配慮の提供をコーディネートした。</p> <p>・全学共通科目で「心理カウンセラーについて」、「アルコールと喫煙の健康への影響について」（いずれも11月実施）についての講義を担当した。</p> <p>・本来のキャンパスライフができない状況が続く中で「健康だより」（計21号）、「相談室だより」（計5号）を発行し、メール・SNSでの配信、プラズマディスプレイや掲示、ホームページ、構内放送などで注意喚起を適宜行い、心身の健康保持・増進につながる情報発信をした。</p> <p>・学生室と協力し「小鹿便り」を発行し、健康に関することや感染予防や新型コロナウイルス感染症に関する情報を発信した。（短期大学部）</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の職域ワクチン接種を実施し、大学として学生や教職員等を対象としたワクチン接種の機会を提供した。</p> <p>・体調不良後の登校にあたり、「健康チェック」を実施した。（短期大学部）</p> <p>・感染防止対策の一つとして、食堂に「エチケットセット」（吐しゃ物の処理セット）を設置し、周知した。</p> <p>・学生の定期健康診断結果において、令和3年度は新型コロナ感染対策により、個別での保健指導対象を要再検査・要受診判定者の204人に、再検査（BMI・血圧・検尿）と生活指導・受診勧奨を行った。</p> <p>・健康増進コーナーの拡大を図ると共に、職員もくつろげる「休憩コーナー」を設置した。（短期大学部）</p>	S (R2) (A)	A (R2) (A)	<p>学生・教職員へのワクチン接種の実施、遠隔授業等により孤立しがちな学生に対する心身の健康保持のための情報発信など、計画を順調に実施している。</p> <p>引き続き、きめ細やかな学生の健康増進に取り組まれない。</p> <p><R3主な取組></p> <p>①学生及び教職員への新型コロナウイルスワクチンの2回の職域接種の実施（約1,600人）</p> <p>②学生の心身の健康保持・増進に向けた情報発信（学内情報誌の発行、メール・SNSでの配信等）</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和3年度事業年度計画）

評価を変更した項目（3項目）

資料1

No.	中期計画	R3年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
45	<p>〔経営情報学部、経営情報イノベーション研究科〕</p> <p>・ビジネス・公共・社会においてイノベーションを促進するための、経営・政策・情報・観光及びそれらを融合した領域における研究を推進する。</p>	<p>〔経営情報学部、経営情報イノベーション研究科〕</p> <p>・経営、公共政策、情報、観光4分野において、文理融合や学際的な研究を活かした高度な知見、成果を、4センターの活動や社会人講座等の機会を捉え目に見える形で地域に還元していく。</p> <p>・ツーリズム研究センターでは、賀茂地域を含む県東部・伊豆地域に活動を展開する。</p>	<p>・経営情報イノベーション研究科では4分野の研究の成果を各センターの活動や社会人学習講座の形で地域に還元した。社会人学習講座は令和2年度の25講座を上回る27講座を開講した。</p> <p>・ツーリズム研究センターでは、静岡大学、静岡文化芸術大学と賀茂地域1市5町の相互連携に関する包括連携協定に基づき、賀茂地域広域連携会議や賀茂キャンパス広域連携会議において、各地域の課題やその解決に向けた取組に関し定期的に意見交換したほか、賀茂地域社会人講座を毎月実施し、内容が地域の新聞・テレビで取り上げられるなど、積極的な活動を展開した。</p> <p>・令和3年度は、新たに静岡県教育委員会と連携して中学生を対象とした「未来を切り拓くDream授業・賀茂版」を開催し、事後アンケートでも高い満足度となった。そのほか、下田高校での「高校生のための観光講座」の開講や、同校生徒と下田市・観光協会等との意見交換会の実施、本学と静岡大学、静岡文化芸術大学が共同で、賀茂地域観光の魅力を若年層向けに発信する「賀茂の若旅」を企画、オンラインツアーとして発信した</p> <p>・賀茂地域以外においても、静岡県と共同でJR東静岡駅南口の県有地の再開発計画の検討を開始し、実証実験やアンケート活動を実施したほか、熱海市における土石流被害への支援活動として、熱海市商工会議所、観光協会と連携し、観光客の減少により売り上げ不振を余儀なくされた土産品製造・小売事業主を支援するため、学生有志が「あたまやげおつかいし隊」を結成し、県民向けに土産品を通信販売する事業を実施し、収益金を熱海市へ寄付した。さらに、県内市町等から要請のあった地域課題解決や観光を通じた地域振興策について、学生を交えて共同研究や検討に取り組み、県内の様々な地域を対象とした活動を推進した。</p>	S	A	<p>令和2年度にツーリズム研究センターが設置され、賀茂地域において関係機関と連携した活動を開始した。</p> <p>アフターコロナの県内の観光振興を見据え、今後の更なる事業展開に期待する。</p> <p><R3主な新規取組></p> <p>①経営情報イノベーション研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程において観光分野の大学院生の受け入れ（3名）を開始 ・静岡県教育委員会からの要請により県内商業高校から観光教育担当教員（1名）を研究生として受入 <p>②ツーリズム研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR東静岡駅南口県有地の有効活用に関する静岡県との共同プロジェクトに参画 ・静岡県教育委員会、静岡県賀茂地域局、市町等と連携し、賀茂地域の中学生・高校生向けの学習講座を開始

評価を変更した項目、課題とする項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和3年度事業年度計画）

評価に当たっての意見がある項目（2項目）

資料 1

No.	中期計画	R 3 年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
11	<p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学研究科の機能強化を図るために、博士前期課程においては教育機能の検証とともにキャリア育成に係る高度看護実践教育に取り組む。博士後期課程においては、高度な専門的知識の活用のみならず、新たな看護学の知識体系の構築・開発に取り組める研究能力、地域において制度的な枠組みを主導的に構築できる能力を身に着けることができる教育課程の確立を目指す。 <p>静岡県の助産師養成の現状、実習施設の状況、教育体制などを総合して評価し、教育の拡充を図る。</p>	<p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度より「特定行為に係る看護師の研修制度」を開始し、看護職者のリカレント教育に取り組む。 令和2年度開始の博士後期課程カリキュラムを引き続き遂行する。 令和4年4月からの保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に基づいた助産師養成課程の新カリキュラムを文部科学省に申請し、認可を受ける。さらに運用に向けた取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護学部附置として設置した看護実践教育研究センターにおいて、看護師特定行為研修と女性の健康支援事業を行った。 令和2年度開始の博士後期課程カリキュラムを順調に遂行した。 学部・研究科合同カリキュラム検討委員会を2か月に1回開催し、4月23日、文部科学省に助産師養成課程のカリキュラム変更申請を行い、9月6日付で変更承認の通知を受けた。 	A (R2) (S)	A (R2) (S)	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>「看護実践教育研究センター」を設置し、看護師特定行為研修や女性向けの健康講座を実施した。 県内の看護分野のリカレント教育の拠点として、地域医療の多様なニーズや看護職の教育ニーズに対応し、教育内容の拡充を図りたい。</p> </div> <p>< R 3 主な取組（看護実践教育研究センター） ①看護師特定行為研修（定員5名） R 3：1名修了 R 4：2名受講</p> <p>②女性の健康支援事業 ・対象：県内在住の30歳以上の女性 ・内容：「静岡県立大学から発信する女性のための健康講座～ミドル&シニア世代の心と身体を支える」をテーマとした3講座を実施</p>

評価を変更した項目、課題とする項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和3年度事業年度計画）

評価に当たっての意見がある項目（2項目）

資料 1

No.	中期計画	R 3 年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																								
27	<p>・ 社会人、留学生を含めた志願者の状況や入試に関する外部要因の情報に基づく入学者確保対策や学内教育体制の検討、見直しに取り組み、各学科、各専攻の定員充足を図る。</p> <p>大学院については、入学定員の充足を目指した取組を推進する。</p> <p>〈数値目標〉 大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程 100%、博士／博士後期課程 100%</p>	<p>・ オープンキャンパスや大学院入試説明会の状況、各種入試志願者数、受験産業の情報の推移を分析し、志願者数向上のための改善を図る。</p> <p>・ 授業内容の更なる充実や学部ホームページのコンテンツ強化、高大連携を通じた優秀な高校生の受入れ等により県内外からの志願者を増やすことで、質の高い学生を確保し、人材育成に努める。（経営情報学部、経営情報イノベーション研究科）</p> <p>・ 大学院説明会を開催し、他大学及び社会人、海外からの志願者の増加を図る。また、大学院募集要項の英語版を整備するとともに、志願者数向上及び社会人大学院生・外国人留学生を確保するために、積極的な広報活動を展開する。（薬学専攻、薬科学専攻、薬食生命科学専攻）</p> <p>・ 引き続きオープンキャンパスを中心に入学者選抜方法、教育方法、長期履修制度などの広報活動を行い、入学者確保対策に取り組む。</p> <p>・ 静岡県の試験研究機関を対象とした大学院説明会を開催し、社会人からの志願者の増加を図る。また、大学院ホームページの英語版を充実させ、留学生を含めた志願者数向上を目指した積極的な広報活動を展開する。（食品栄養科学専攻、環境科学専攻）</p> <p>・ 入学定員数の在り方について検討する。（薬食生命科学総合学府、看護学研究科）</p> <p>・ 定員充足を図るため、場所や時間を選ばないオンラインオープンキャンパスを実施する。また、入学者選抜の受験科目等の見直しを行う。（短期大学部）</p>	<p>（薬学部）</p> <p>・ 教員及び在学生による参加型双方向イベント「薬学部2021オープンキャンパス生配信」を開催し、県内外から約450人の参加があった。また、バーチャルオープンキャンパスとして、模擬講義動画8本や模擬薬局見学、在学生インタビューをウェブ公開し本学部の志望選択に役立つコンテンツを提供した（8月6日）。事後アンケートからも好評が何え、推薦入試の志望理由書にも記載されるなど受験生獲得につながった。</p> <p>（食品栄養科学部）</p> <p>・ 高校生を対象としたオンデマンド形式のオープンキャンパス及びオンライン形式の進路相談会を実施した。対面形式またはオンライン形式の体験型イベント「サマースクール」を開催し、高校生に学部の魅力をアピールした。学部案内の更新、学部及び学科ホームページの情報の更新を行い、学部の魅力発信に努めた。</p> <p>（国際関係学部）</p> <p>・ オープンキャンパスを実施し、各種入試志願者数、受験産業の情報の推移を分析した上で、志願者数向上のための改善の具体的検討を開始した。（経営情報学部）</p> <p>・ オンラインでのオープンキャンパス開催など高大連携活動を進めるとともに、観光マネジメント分野については、県内高校への観光出前授業を積極化させ、その中で本学への進学の特長や観光分野での学びについて説明し、高校生の関心を高めるとともに、賀茂地域を中心に中学生、高校生向けのワークショップを開催し、大学への親近感や関心を高める取組を推進した。</p> <p>（薬学専攻、薬科学専攻、薬食生命科学専攻）</p> <p>・ 動画配信による大学院説明会を実施した。また、英語版のホームページを作成した。</p> <p>（食品栄養科学専攻、環境科学専攻）</p> <p>・ 大学院進学率を上げるため、内部学部生を対象とした大学院説明会を実施し、内部生の大学院進学を促した。また、動画配信による大学院説明会も実施した。</p> <p>（看護学研究科）</p> <p>・ 第1次入試で博士前期課程8人、博士後期課程3人の合格者を出した。博士前期課程においては入学定員確保のため第2次試験を実施し、2人の合格者を出した。</p> <p>（食品栄養科学専攻、環境科学専攻）</p> <p>・ 静岡県工業技術研究所の一般職員を対象に大学院説明会と学内見学会を実施した。また、留学生を含めた志願者数向上を目指し大学院ホームページの英語版を作成した。</p> <p>（次ページへ続く）</p>	B (R2) (A)	B (R2) (A)	<div><p>大学院の一部の研究科において入学定員の未充足が続いている。情報発信の強化や入学者選抜方式の改善等をおこなったものの、博士後期課程において、大幅に定員を下回った。全国的に博士後期課程の定員未充足の傾向が進んでおり、安定的な学生確保に向けた努力とともに、大学院全体の将来構想を早急に議論し、実効性のある対策を図られたい。</p></div> <p>入学定員充足状況（大学院）</p> <table><tr><th colspan="4">修士／博士前期</th></tr><tr><th>年度</th><th>入学者数</th><th>入学定員</th><th>充足率</th></tr><tr><td>H30</td><td>99</td><td>111</td><td>89.2%</td></tr><tr><td>R 1</td><td>112</td><td>111</td><td>100.9%</td></tr><tr><td>R 2</td><td>86</td><td>111</td><td>77.5%</td></tr><tr><td>R 3</td><td>122</td><td>111</td><td>109.9%</td></tr><tr><td>R 4</td><td>109</td><td>111</td><td>98.2%</td></tr></table> <table><tr><th colspan="4">博士後期</th></tr><tr><th>年度</th><th>入学者数</th><th>入学定員</th><th>充足率</th></tr><tr><td>H30</td><td>41</td><td>41</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>R 1</td><td>25</td><td>41</td><td>61.0%</td></tr><tr><td>R 2</td><td>35</td><td>44</td><td>79.5%</td></tr><tr><td>R 3</td><td>42</td><td>44</td><td>95.5%</td></tr><tr><td>R 4</td><td>25</td><td>44</td><td>56.8%</td></tr></table>	修士／博士前期				年度	入学者数	入学定員	充足率	H30	99	111	89.2%	R 1	112	111	100.9%	R 2	86	111	77.5%	R 3	122	111	109.9%	R 4	109	111	98.2%	博士後期				年度	入学者数	入学定員	充足率	H30	41	41	100.0%	R 1	25	41	61.0%	R 2	35	44	79.5%	R 3	42	44	95.5%	R 4	25	44	56.8%
修士／博士前期																																																														
年度	入学者数	入学定員	充足率																																																											
H30	99	111	89.2%																																																											
R 1	112	111	100.9%																																																											
R 2	86	111	77.5%																																																											
R 3	122	111	109.9%																																																											
R 4	109	111	98.2%																																																											
博士後期																																																														
年度	入学者数	入学定員	充足率																																																											
H30	41	41	100.0%																																																											
R 1	25	41	61.0%																																																											
R 2	35	44	79.5%																																																											
R 3	42	44	95.5%																																																											
R 4	25	44	56.8%																																																											

評価を変更した項目、課題とする項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和3年度事業年度計画）

評価に当たっての意見がある項目（2項目）

資料 1

No.	中期計画	R 3 年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
27	(続き)	(続き)	<p>(国際関係学研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から志願者数向上のために、新たにオープンキャンパス委員会を設置して精力的に活動を実施した。令和3年度から留学生の志願者数向上のために、従来の静岡県内の日本語学校だけでなく、東京都を中心とした日本語学校を初めて対象として大学院説明会を開催した（前期オープンキャンパス:6月12日、後期オープンキャンパス:11月19日、大学院説明会:5月12日（日本健康医療専門学校ライフデザイン科）、5月19日（ACC国際交流学園）、10月18日（ACC国際交流学園）、2月17日（本学学部生対象））。また、志願者と志望指導教員のマッチングを重視した内容にオープンキャンパスの仕組みを改革した。令和3年度より入学者選抜方式を改善し、二次募集において新たにオンラインによる口頭試問を実施した。 （経営情報イノベーション研究科） ・新型コロナウイルス感染症の影響から大学院志願者向けの対面相談会を開催することができなかったが、代わりにZoomによるオンライン相談会を実施した。また、観光分野を中心に地方自治体やDMO、観光協会等に対し博士前期課程への進学を紹介し、協力を求めた。また、社会人講座の機会を利用してリカレント教育の一環として博士前期課程への進学をPRした。 （看護学部、看護学研究科） ・学部では、バーチャルオープンキャンパスを開催し、学部や専門領域の他、在校生による学習法やキャンパスライフを紹介した。研究科では、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、ハイブリッド（対面とオンラインの両方で同時に実施）で1回、オンラインで1回開催し、専門領域紹介や修了生による講演会、対面時は教員相談や在校生交流会を行った。大学サイト、大学院進学情報サイトへの掲載、関係各所への大学総合案内、看護学部・看護学研究科案内の送付を活用した広報活動を行った。 （短期大学部） ・オンラインオープンキャンパスでは、選抜内容の説明や各学科の紹介、本学教員による模擬講義の動画を作成した上で、より多くの受験生に視聴を促すため、視聴期間を選抜実施時期である11月末まで延長した。 （薬食生命科学総合学府） ・入学定員数の在り方について検討した。 （看護学研究科） ・博士前期課程の入学定員数については、令和2年度に大学院協議会で減員の承認を得た後、静岡県と協議を継続している。 <p>大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程 98.2% 博士／博士後期課程 56.8%</p>			(続き)

検証後の集計結果（静岡県公立大学法人）

		評価対象 項目数	評価委員会検証					法人自己評価				
			SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要	SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育 研究 等	1 教育	41	0	4	36	0	0	0	6	34	1	0
	2 研究	12	0	2	10	0	0	0	3	9	0	0
	3 地域貢献	8	0	1	7	0	0	0	1	7	0	0
	4 グローバル化	5	0	1	4	0	0	0	1	4	0	0
	合 計	66	0	8 (12.1%)	57 (86.4%)	1 (1.5%)	0	0	11 (16.7%)	54 (81.8%)	1 (1.5%)	0
法人 経営	1 業務運営の改善	7	0	0	7	0	0	0	0	7	0	0
	2 財務内容の改善	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	3 施設・設備の整備、活用	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	合 計	11	0	0	11 (100%)	0	0	0	0	11 (100%)	0	0
自己 点 検	1 評価の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開・広報の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	合 計	2	0	0	2 (100%)	0	0	0	0	2 (100%)	0	0
そ の 他	1 安全管理	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	2 社会的責任	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	合 計	5	0	0	5 (100%)	0	0	0	0	5 (100%)	0	0
総 合 計		84	0	8 (9.5%)	75 (89.3%)	1 (1.2%)	0	0	11 (13.1%)	72 (85.7%)	1 (1.2%)	0